

## オキアミ調査速報

2月27日に県漁業調査指導船「みやしお」「開洋」によるオキアミ魚探調査及び水温調査を実施しました。概要は以下のとおりです。

### 調査ライン位置図

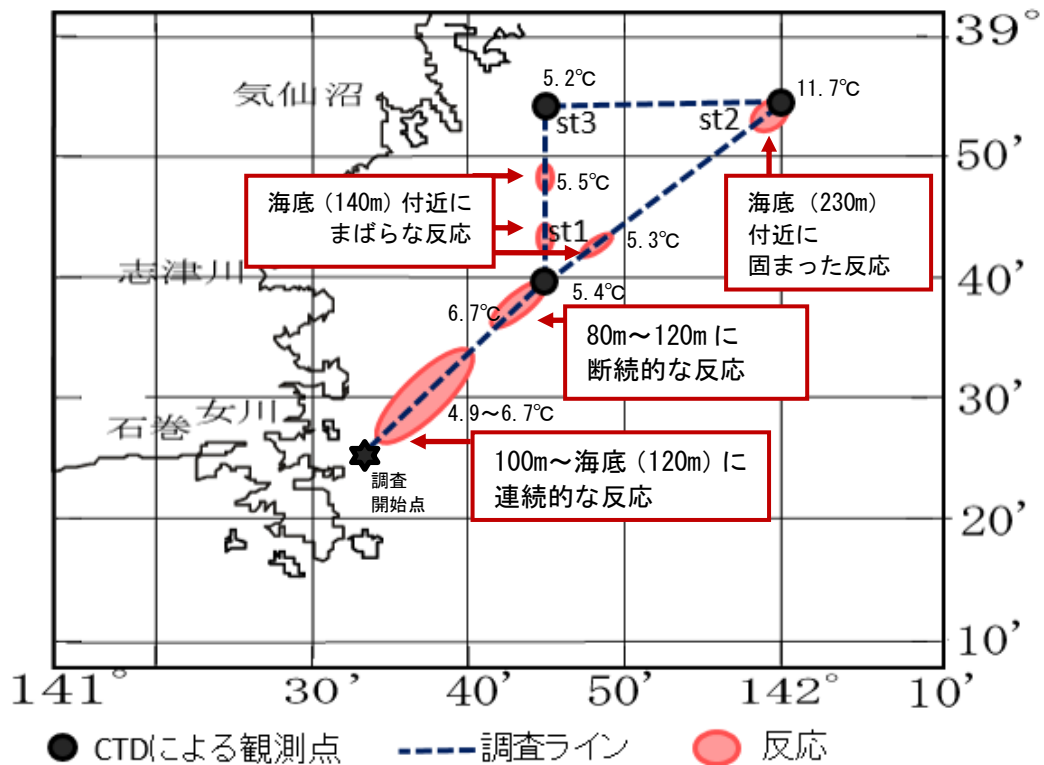


図1 みやしおによるオキアミ調査ライン

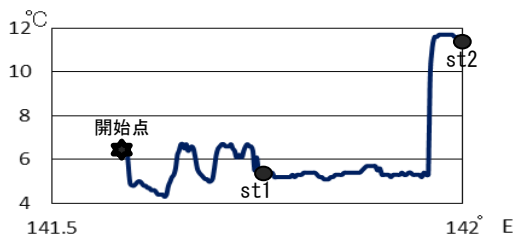


図2 調査開始点～st3間の表層水温分布

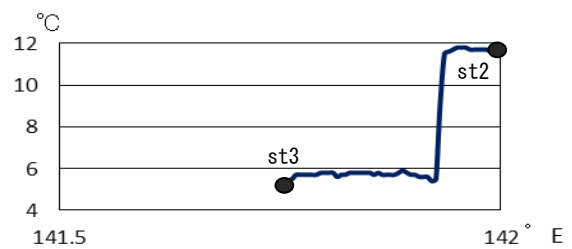


図3 st3～st2間の表層水温分布

表1 水温観測結果

		st1	st2	st3
緯度		38° 40' N	38° 55' N	38° 55' N
経度		141° 45' E	142° E	141° 45' E
透明度		24	20	11
水深		168	242	110
水温	0m	5.4	11.7	5.2
	50m	5.83	7.62	5.83
	100m	5.66	6.04	6.08
	海底直上	5.81	5.73	6.10

みやしおによる県北部海域での調査では、オキアミと思われる反応は女川沖をはじめとした複数個所で確認されていますが、すべて海底付近の深い層（100m～140m）での反応でした。表層水温は沿岸部では冷水南下の影響で低くなっていますが、142° E付近に潮目があり、そこより東側では表層水温が大幅に高くなっています。

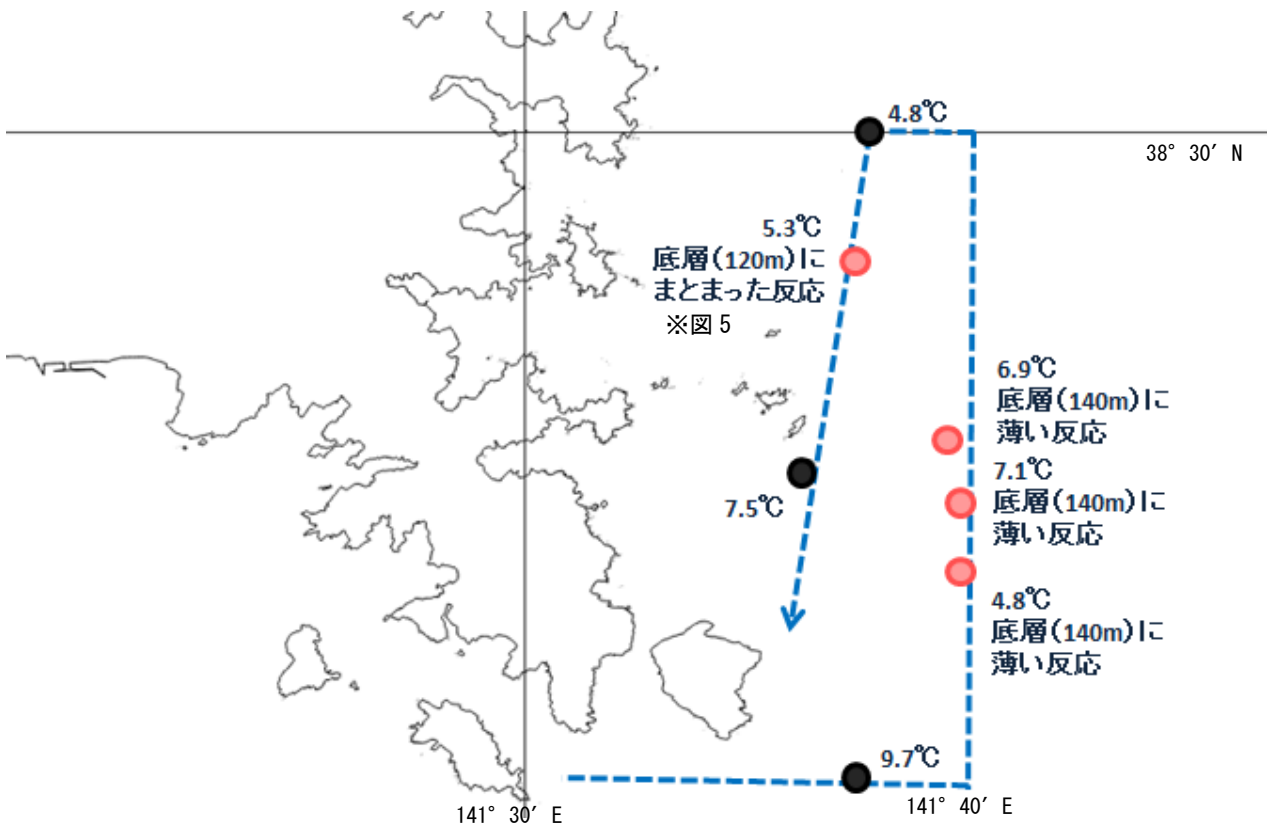


図4 開洋によるオキアミ調査ライン

開洋による牡鹿半島周辺での調査では、数箇所でおキアミと見られる反応がありましたがいずれも底層でした。またノルパックネットを用いて群の採集を試みましたがオキアミは採集されず、群の分布は局所的である可能性があります。表層水温は冷水の影響を受けて4℃台まで下がる点がある一方、牡鹿半島以南では9℃台となるなど、変動が大きくなっています。

**まとめ**

オキアミ魚群が集まるとされる7～8℃の水温帯よりも低水温の海域が多く、群れは底付きになっています。

岩手県境付近の反応は薄く、比較的濃い反応は志津川～女川沖となっていました。

漁開始にあたっては、これらの海域を中心に漁場探索を行ってください。

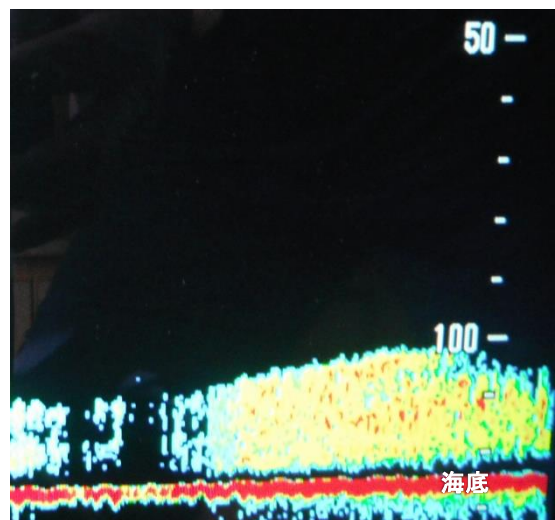


図5 魚探（高周波）による反応例